

# 共栄のハビタット

今日、都市開発に伴い、生物はかつてないほど絶滅し、減少した。

植物は、動物や昆虫による受粉や土壌分解の助けを失い、成長や繁殖において重大な打撃を受けたに違いない。

植物を植えることが、人だけではなく動物に生きる場を提供する。

生息地を失った動物たちは、花をきっかけとして、まちや公園、庭、川などの各エリアに居場所を見つける。

まちを張り巡る花は、新たな動物の生活の場となり、動物は花の受粉を助ける。

動物は、花をたどり、まちの外へ出かける。

動物が辿る道は、種子が落ち、花の畑となる。

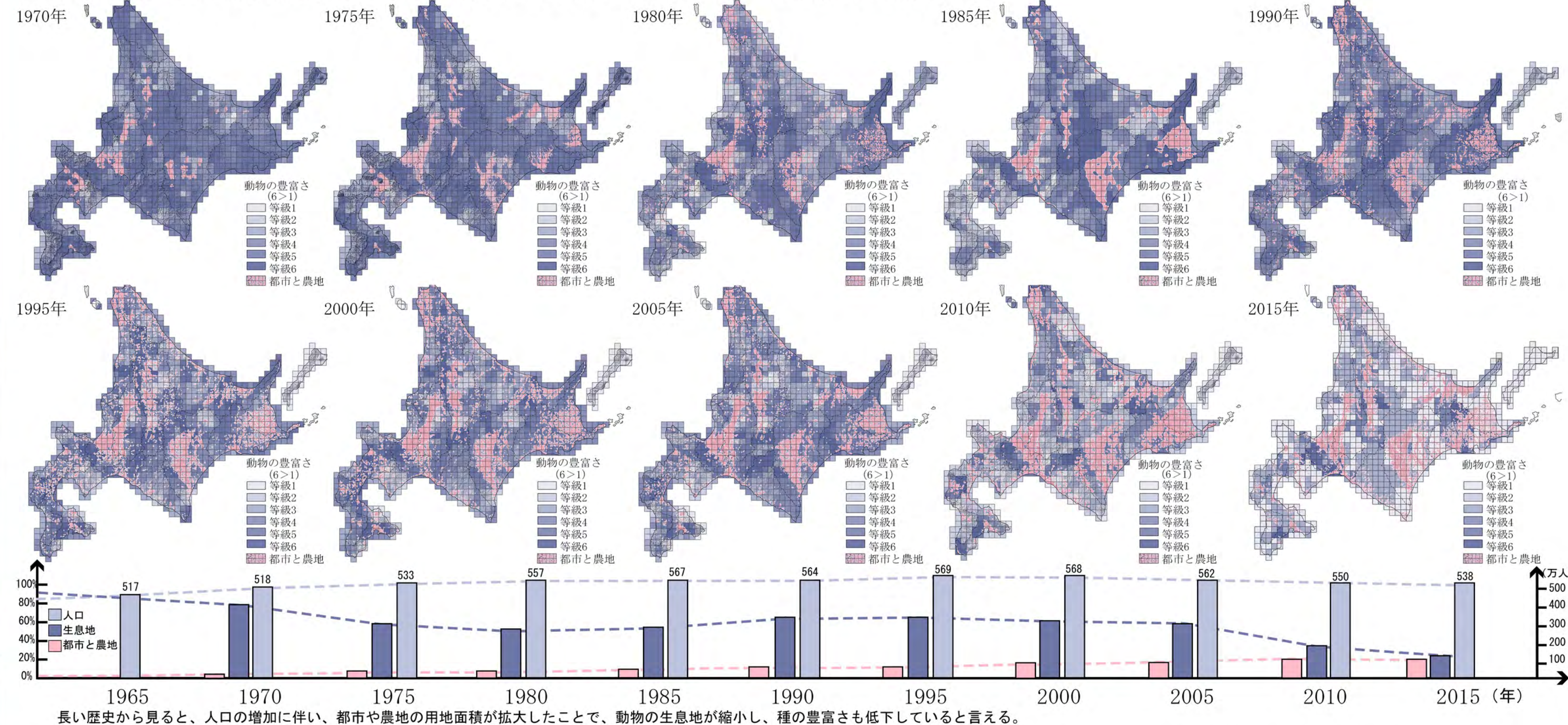
生物と庭による新しいガーデンアイランド。「共栄のハビタット」の提案。



## 背景：北海道で日々起きている動物の絶滅と減少

日本有数の大自然を誇る北海道において近年自然環境は大きく変化している。

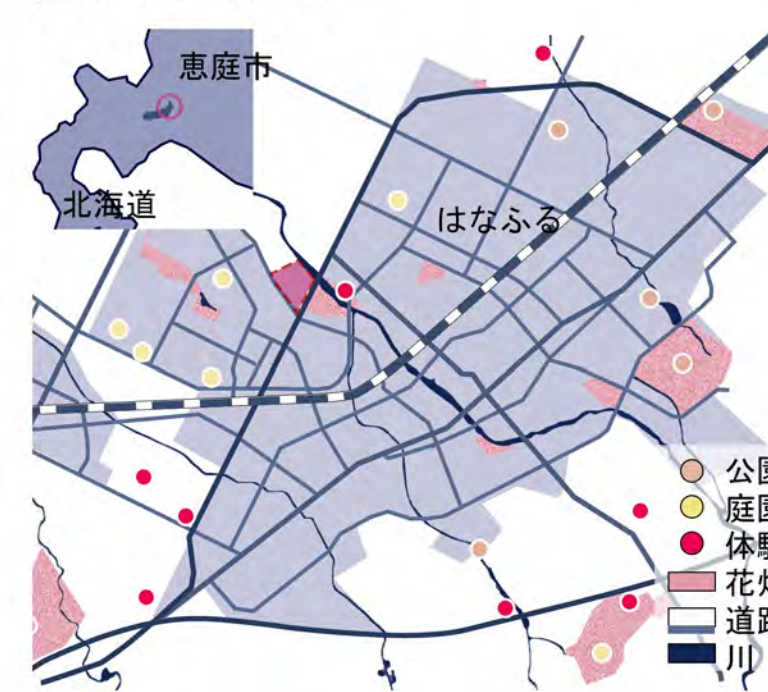
1970年から現在に至るまで、都市の開発が進み、生息地が分断されていくことで、これまでにないスピードで動物の絶滅が進んできた。



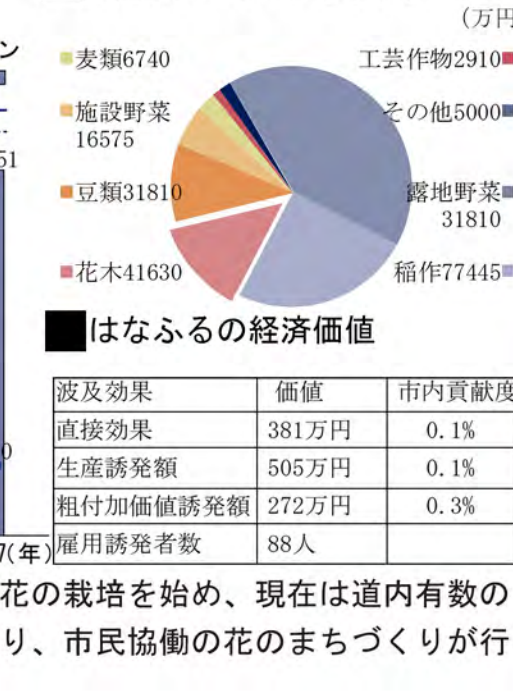
長い歴史から見ると、人口の増加に伴い、都市や農地の用地面積が拡大したことで、動物の生息地が縮小し、種の豊かさも低下していると言える。

## 敷地：ガーデンシティ恵庭

花と緑の現状分布

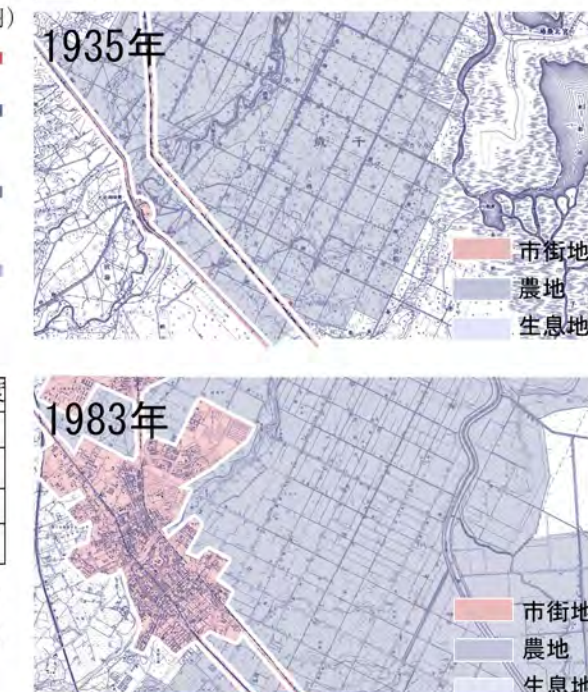


農産物における花卉の割合

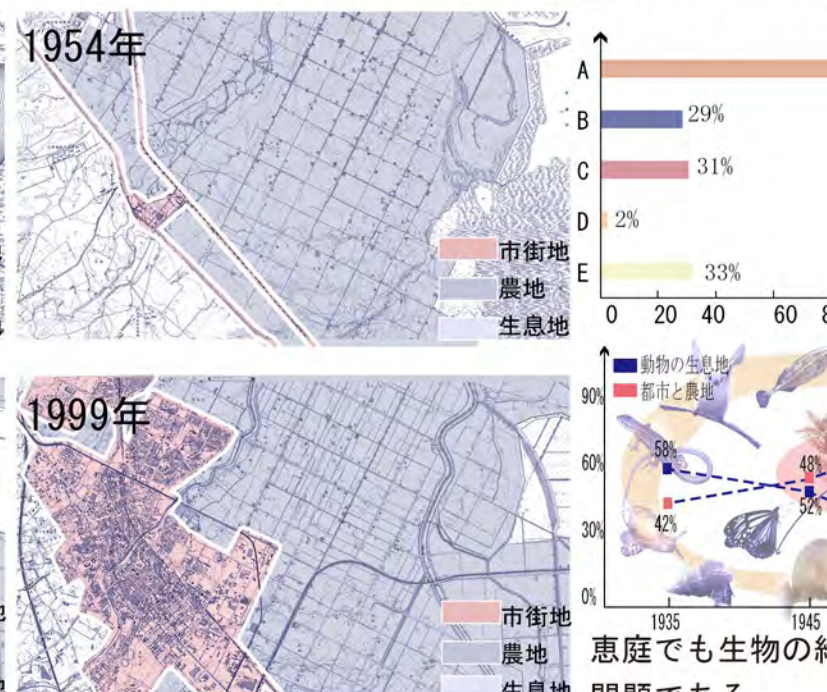


## 恵庭でも起きる生息地の分断と動物の減少

恵庭市の土地利用の変化

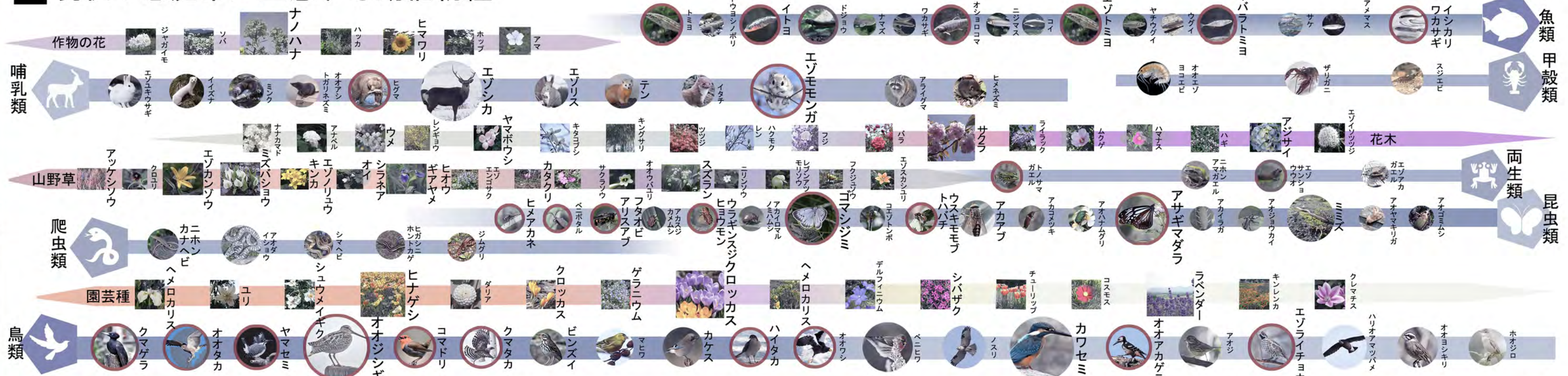


動物の減少要因



恵庭でも生物の絶滅と減少は深刻な問題である。

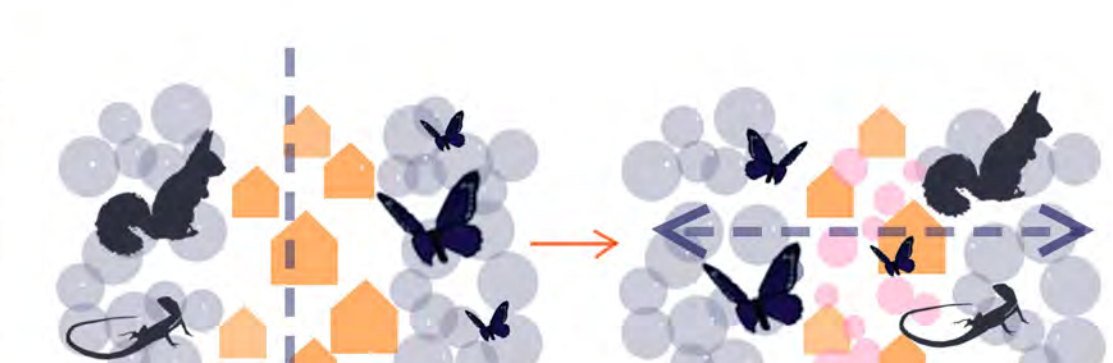
## 現状：恵庭市に生息する動植物種



表の赤枠が希少種 (出典：北海道環境データベース)

## 提案：動物と花の庭空間 『共栄のハビタット』

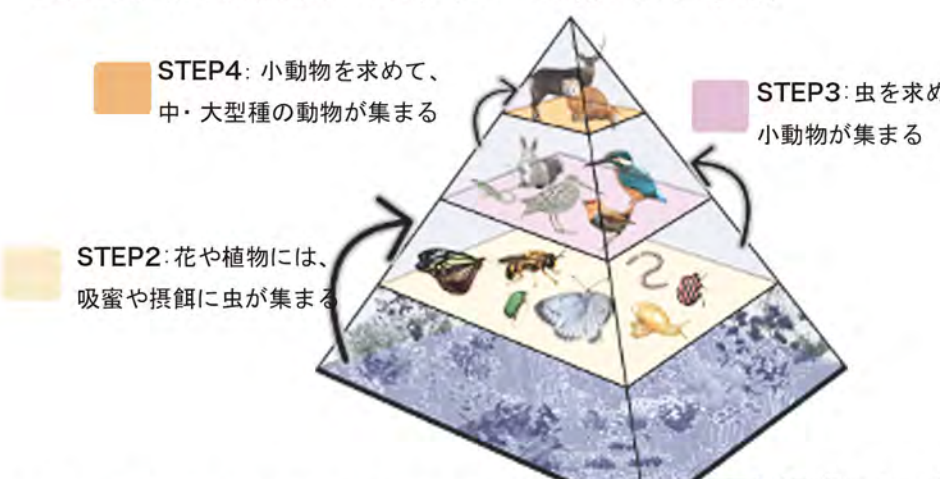
本提案では、都市開発により分断された生息地を再びつなぐために、北海道に根付くガーデン文化を発展させた新たな動物と花のための園芸空間「共栄のハビタット」を恵庭を拠点として、まちの中に提案する。



都市による分断から都市による連結へ

## 花が動物の居場所になるまで

人々の園芸活動は都市に花の空間を生み出す。このステップは共栄のハビタットへの第一歩となる。



人々の園芸活動は動物の生活基盤を作り、それらがつながることで共栄のハビタットへ発展していく。

## 共栄によって生まれる豊かな暮らし



